

2024年度 自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾
麻生医療福祉 & 保育専門学校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、麻生医療福祉&保育専門学校の2024年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2025年 1月 31日

麻生医療福祉&保育専門学校

目 次

I 教育理念・教育目標(育成人材像).....	- 3 -
II 重点項目	- 5 -
基準 1 教育理念、目的、育成人材像	- 7 -
基準 2 学校運営	- 8 -
基準 3 教育活動	- 13 -
基準 4 学修成果	- 18 -
基準 5 学生支援	- 20 -
基準 6 教育環境	- 22 -
基準 7 学生募集	- 24 -
基準 8 財務	- 25 -
基準 9 法令遵守	- 26 -
基準10 内部質保証	- 27 -
基準11 社会貢献・地域貢献	- 28 -

評価結果

S:適切

A:ほぼ適切

B:やや不適切

C:不適切

I 教育理念・教育目標(育成人材像)

【教育理念】

健全な倫理観を持ち、責任ある行動において万人が安心できる暮らしを創造する。

【教育目標(育成人材像)】

医療秘書・事務科

診療報酬請求事務を含む医療事務に必要な専門科目を中心に学び、幅広い知識と豊かな人間性が必要とされる医療事務職員を養成する。また、患者に対する適切な接遇マナーや迅速なコンピュータオペレーションなど病院や診療所に必要な基本的要素をすべて取り入れた総合カリキュラムで、より質の高い社会性を持った人材を育成する。

診療情報管理士科

診療記録を正確に管理・分析するために必要な医療の知識を幅広く学び、診療情報管理士資格の取得を目指す。ITの知識と技術を利用して様々な問題解決、および効率化を提案、大量の診療記録を一元管理しながら情報分析を行い、含まれるデータを見つけ出す。また院内システム管理も担当し、医療・ITともに高度な知識を有する人材を育成する。

こども未来学科

人格形成の上で重要な乳幼児期に関わる保育者の役割を認識し、保育のスペシャリストとして、こどもたちの成長に真摯に寄り添い、多様化する保育ニーズに対応できる実践力・柔軟性を持ち、誰からも愛され信頼される人間性豊かな保育者を育成する。

こども保育科

人格形成の上で重要な乳幼児期に関わる保育者の役割を意識し、こどもたちの成長に真摯に寄り添い、常に向上心を持って成長し続けられる保育者を育成する。

社会福祉科

社会福祉領域およびこども家庭福祉分野を中心とした保育領域に、学修の基盤をおき倫理観を備え、支援が必要な人々や協働する多職種から信頼されるソーシャルワーカーを育成する。

介護福祉科

地域共生社会に寄与する人材なるべく、多職種連携教育(IPE)・ICT・介護ロボット等最先端の情報を積極的に取り入れ、介護福祉のスペシャリストとして介護業界の中核を担う人材となる。

福祉心理学科

精神保健福祉及び社会福祉領域に関する学問を基盤とし、対人援助に関する知識・実践力を活かし、様々な立場の人の包括的な支援を行い、地域共生社会及び社会正義の実現を目指すソーシャルワーカーを育成する。

診療情報管理士専攻科

医療秘書、医療事務に必要な知識・技術に加え、診療情報管理士の知識を備えた、即戦力のジェネラリストとして活躍するために必要な医療と IT を総合的に学び、即戦力となる人材を育成する。

国際介護福祉科

日本語及び日本の文化や福祉観を学び、人種・国籍を越えた倫理観を備え、日本国内で活躍することができる人材を目指す。

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

事務部門スタッフを増員することで、煩雑な教務事務の効率化を図り、教員が本来注力すべき教材研究や教科指導法のブラッシュアップ、学生一人ひとりと向き合う時間の確保を実現する。

教育活動については、学生の主体的な学びを促進するため、麻生塾独自のラーニングマネジメントシステムを活用し、その機能である「学レポ(授業单元ごとに学生の授業満足度や理解度を収集するアンケート)(以下、「学レポ」という。)」を全学科・全授業で実施する。これにより、リアルタイムで教員から学生へのフィードバックを行い、学生の習熟度を可視化し向上を目指す。また、地域の団体との協働をさらに深め、演習カリキュラムの強化や学内外での実践機会のさらなる獲得を図る。

8月に実施するカリキュラム会議では、顧客ニーズに合わせてディプロマ・ポリシーの再編とアセスメントポリシーの検討を行い、各科目の到達点を明確にした状態でのシラバス作成を進める。変化の速い時代に対応し、学修成果の向上を目指した柔軟なカリキュラム改訂を実施する。

学生支援については、中途退学者を減らす取り組みを強化する。学業に限らず、体育祭や学園祭、1年生全体イベントなどを充実させ、学生同士の主体性と関係性を高める活動を推進する。また、学校生活の充実度に関するアンケートを実施し、学生の学校満足度を可視化する。アンケート結果をもとに教職員全員で高めるための具体的な施策を検討し、実行に移すことで、さらなる満足度向上を目指す。

就職支援については、学校法人麻生塾就職支援グループ(以下、「就職支援グループ」という)と連携し、スマートフォンで24時間求人情報を検索できる「CareerMap」を活用。担任、就職担当職員と学生の3者で就職活動の情報をリアルタイムで共有し、マッチング精度の向上を図る。

学生募集については、既存の募集活動をさらに強化するとともに、オープンキャンパス(以下、「OC」という)に全校プログラムを追加し、総合専門学校としての強みを打ち出したプロモーションを実施する。OCの体験価値を最大化し、参加者の満足度をさらに向上させる。また、学校の魅力についてSNSを中心に多様な媒体を活用して発信し、高校生だけでなく、福祉施設や医療機関からも多くのサポーターを獲得する。

2. 取組み状況

教務事務の効率化については、改善活動担当教員と事務部門職員が定例で会議を実施し、試験事務などこれまで学科や担任単位で行っていた作業を共有したほか、実習に関する事務全般についても効率化を図った。また、教員の業務効率化を目的としてAI活用を積極的に導入し、ChatGPTのアカウント整備を行うとともに、教員向けのAI講習を実施してAIを活用した業務改善を推進した。

教育活動については、社会福祉士及び精神保健福祉士の演習カリキュラムにおいて、厚生労働省が示すガイドラインに沿った「地域における課題発見と解決に向けたアクション」を実現させるため、担当教員が学習会で意見を交わして計画した地域で暮らす高齢者を対象としたレクリエーションを実施したほか、参加した高齢者の方々を本校に招き、「地区に暮らす高齢者のさまざま「生き方」を聞く」をテーマにグループに分かれて傾聴する教育実践を展開した。また、診療情報管理士認定試験対策ではオンデマンド動画を導入し、学生が繰り返し視聴することで学習効果を高める試みを行い、介護福祉科では国家試験対策AIを活用し、模擬問題を通じて学習の強化を図ることで、学生の試験合格率向上を目指した。さらに、教育活動全般の可視化を図るために、学レポと学校生活の充実に関するアンケートを実施し、学生の授業満足度や学校全体の充実度をデータとして収集した。これらの結果をもとに教職員が改善を重ね、教育活動の質を向上させる取り組みを推進した。

就職支援については、「CareerMap」の導入にあたって、就職年次担任及び就職担当職員と懸念事項をす

り合わせた上で運用を開始し、マッチング精度向上を目指して関係教職員による定例ミーティングを開催し、すべての学生の内定獲得に向けた支援を強化した。

学生募集については、診療情報管理士科を再編し、「AI&診療情報管理士科」として医療・福祉分野に興味のある層以外の学生獲得に動き出した。また、SNSを活用した外部発信を拡大するためにInstagramのフォロワー数増加を目指した施策を実施し、さらにTikTokを新たに開設して動画を活用した情報発信の回数を増やし、学校の魅力を効果的に伝える取り組みを進めた。

3. 総括(成果と課題)

2024年度の取り組みにおいては、教務事務の効率化、教育活動の強化、就職支援、学生募集において一定の成果を挙げることができた。

教務事務については、事務部門を5名体制に増員し、効率化に向けた体制を整えた。事務職員が担任補助を行い、担任の役割負担を軽減するとともに、実習事務に対して専任の事務担当を配置し、データベース整備を進めながら業務負担を削減した。また、学レポの時間割設定を事務職員が代行することで、教務の負担軽減と数値的可視化を実現した。しかしながら、事務作業全般の工数削減にはまだ至っておらず、本当の意味での効率化を実現するためにはさらなる改善が求められる。

教育活動では、学レポをほぼすべての授業で実施することができ、授業満足度や学生の理解度をデータとして収集する仕組みが整った。また、社会福祉士及び精神保健福祉士の演習カリキュラムでは、厚生労働省のガイドラインに基づき、地域課題の発見と解決に向けた実践的な教育活動を展開し、学生が社会課題に対する理解を深めることができた。特に、地域高齢者を対象としたフィールドワークやグループ活動を通じて、学生の実践力が向上した。一方で、学レポを通じて収集したデータをどのように教育改善に活用していくかが課題として残っている。

就職支援については、「CareerMap」を導入することで、担任、就職担当職員、学生の3者間でリアルタイムに情報を共有し、就職活動を効率化する基盤が整った。ただし、導入後の具体的な効果検証やマッチング精度向上の度合いについては、次年度以降さらに検証を重ねていく必要がある。また、医療福祉業界における早期離職のリスクを軽減するために、進路決定段階での学生支援の質を高める取り組みが求められる。

学生募集については、新たに再編した「AI&診療情報管理士科」により、これまでとは異なる層(偏差値の高い層や大学中退者など)からの願書獲得に成功した。しかし、全体の学生数をさらに伸ばすためには、募集活動の戦略を再検討し、計画的な実施が必要である。また、SNSを活用した広報活動において、Instagramのフォロワー数増加やTikTokの新規開設によって情報発信を強化したが、具体的な効果の検証やデータに基づく改善が今後の課題となる。

これらの成果と課題を踏まえ、2025年度は、事務作業のさらなる効率化、学レポデータの有効活用、就職支援の効果検証および改善、学生募集における戦略的な広報活動を重点的に進めることで、学校全体の教育の質と運営の向上を図っていく。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

=====

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

=====

中項目1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【取り組み状況】

本校は、社会の変化に対応できる良識と、知識・スキルを備え、常に挑戦する意欲に満ちた専門職として、また一度の人生を大切に思い、感謝心を持って社会貢献できる人材＝グローバルシティズンを育成することを目標として、教育活動、学校運営を行っている。その上で、学校法人麻生塾の建学精神に基づき、教育理念、教育の目的及び育成人材像を定め、主に学生便覧によって学校構成員に周知を図っている。また、ホームページに掲載することにより、社会へ公表している。

また、各学科の教育目的、教育目標(育成人材像)、を定め、それらを掲載した学生便覧を学生、保護者等及び非常勤講師に配付し、周知している。

【課題及びその改善方策】

学生や保護者等については学生便覧等を通じて、また主にホームページを通じて広く社会に周知されているが、関連業界や企業、本校の実習先等への周知については決して十分ではない。

実習施設への巡回指導時や、卒業生が就職している企業や医療機関等の訪問時に本校掲げる育成人材像等の教育活動について理解が深まる印刷物等で周知する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-2	各学科の教育目標(育成人材像)を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

基準 2 学校運営

中項目2-1

学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか。

【取り組み状況】

法人及び学校の教育理念に基づき、運営方針を定め、全教職員で共有している。

【課題及びその改善方策】

現状をさらに良いものとするために、社会ニーズの変化を察知するために常に学校外の情報収集を行う必要がある。改善方策としては教職員が医療・福祉・保育分野の企業へ出向き、情報収集が行える機会・時間を捻出する。また得た情報を共有する仕組み(会議・teams 等)の強化を図る。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	S

中項目2-2

事業計画を作成し、執行しているか。

【取り組み状況】

運営方針に基づき、事業計画を策定している。年度当初に全教職員でキックオフミーティングを行い、教務部門責任者、事務部門責任者がそれぞれ重点施策を発表した。事業計画については、都度執行状況の振り返りを行っている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	S

中項目2-3

運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。

【取り組み状況】

法人としての運営組織や意思決定機関は明文化されており、有効に機能している。理事長・副理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会を隔月開催しており、組織の課題等について合議している。また、各校・各部門の校長代行、部門長以上が合議・情報共有を行う部門長会議など各階層別で必要な会議体が設計され、毎月開催されている。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	S
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	S
2-3-3	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に行われているか。	S
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	S
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	S

中項目2-4

人事・給与に関する制度を確立しているか。

【取り組み状況】

就業規則をはじめとした人事諸規程および労使協定書が法令に遵守し整備されている。

また、法人運営方針や労働関連法改正に対応し各規程のメンテナンスを実施している。

諸規程は全教職員が閲覧できるよう電子ファイルにて公開されており、変更の際は新旧対照表とともに教職員へ周知されている。

2024年4月の人事制度改正にて、新制度設計の整備が完了し、教職員への変更点説明会を実施し周知を行った。併せて、各個人の理解が深まるよう新旧対照表とともにFAQを公開し周知されている。

採用活動においては年間採用計画をもとに、募集を自社ホームページや外部媒体に適宜掲載し欠員・充足状況等をふまえ更新している。選考過程ではシステムに経過や決裁等を記録保管し、適正に活動をすすめている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	S
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	S
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	S
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	S

中項目2-5

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

出席管理については、Excel にて管理表を作成し、学生個人の出席率や科目ごとの出席状況を管理することができる。また、試験事務においては、全学科の状況を把握しながら作業工数の削減と運営フローの標準化を実施した。さらに、AI 活用により授業準備の時間削減を図り、教職員の業務負担軽減に寄与している。具体的には、メール配信や発送文書などの定型文を自動化し、これらの作業にかかる時間を大幅に削減した。これらの取り組みによって、事務作業の効率化がさらに進み、教職員が教育活動に集中できる環境づくりを進めている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-5-1	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	S

基準 3 教育活動

中項目3-1

教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【取り組み状況】

教育課程の編成にあたっては、8 月に 2 日間の教務全体研修を開催し、適切にカリキュラムの見直しと改訂を行った。カリキュラム改訂に際しては、法人の顧客である企業や医療機関、福祉施設の採用担当者様へのヒアリングを重ねるとともに、6 月に開催した第 1 回教育課程編成委員会での意見を踏まえ、より実践的かつ専門的な教育内容となるよう検討を行った。

また、本学ではディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを明示し、シラバスの公開を通じて周知を図っている。さらに、学生がディプロマ・ポリシーに到達しているかを測定するための基準を設定し、適切に検証する仕組みを整備している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-1-1	教育目標(育成人材像)に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目標(育成人材像)に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【取り組み状況】

厚生労働省養成施設指定規則による養成課程の学科をはじめ、それ以外の学科に関しても教育課程の編成・実施の方針に基づいて、授業科目を適切に開講している。また、職業実践専門課程の教育課程編成委員会において、業界ニーズ・社会ニーズを把握し、各業界現場での実習を通してブラッシュアップを図っている。さらに、学科ごとのカリキュラムマップを作成し、科目との整合性をカリキュラム会議を通じて検討することができた。また、AIを活用することで、シラバス作成を早い段階から進めることが可能となり、教育課程の計画的な運用に向けた基盤を整備することができた。

【課題及びその改善方策】

カリキュラムマップの基盤は整い、着実に運用が進んでいるため特に課題はないが、さらなる質の向上が求められる。教育課程全体の整合性を高めるため、各学科や教員間の連携を一層強化し、計画的な改善に取り組むことが重要である。

今後は、作成状況を定期的に確認し、進捗を共有することで作業の効率を高めるとともに、カリキュラムマップを継続的に更新・改善するプロセスを確立し、より社会や業界のニーズに柔軟に対応できる仕組みを構築していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	S
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	S
3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	S
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	S
3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	S
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S

中項目3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【取り組み状況】

授業方法の適切性や学習効果および学生の理解度を把握するために、前期・後期それぞれ全教員の授業アンケートを実施した。また、学レポを全授業に導入したことで、学生の授業満足度や理解度をリアルタイムで把握できる体制を整えた。これにより、教員は各授業単位での課題を迅速に特定し、改善につなげることが可能となった。非常勤講師についても、学レポを活用して学生の習熟度を確認できる環境を整備し、授業の質向上に向けた支援を進めている。

【課題及びその改善方策】

教員の個別フィードバックは実施できている。特に課題としてはないが、収集したデータを今後の教育力向上にどのようにつなげていくか検討を進める。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	S
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	S
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	S
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	S
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S

中項目3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【取り組み状況】

成績評価に関する規程および進級・卒業に関する規程によって、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に定められており、すべて学生便覧に明記され周知している。

また、全科目のシラバスにおいて、成績評価の基準と方法は明記されており、これらに基づいて適正に成績評価・単位認定をおこなっている。進級・卒業に関しても、進級・卒業判定会議において認定・記録され、学生管理システムに登録・管理している。

【課題及びその改善方策】

現状、特に課題は無い。成績評価及び単位認定、学生や保護者等への通知までのプロセスについては、DX 導入を含め改善を図り、業務効率を高めていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	S
3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

各学科には、専攻分野における実務経験豊富な教員を配置しているが、専門性の向上とともに指導力を含めた資質向上がさらに必要であると考え、学外・学内の研修への参加を推進している。特に、学外での研修会への参加を強化し、最新の業界知識や教育手法の習得を図っている。研修後には全体会議や系会議等で内容を共有し、伝達研修を行うことで、教員間での学びを広げる取り組みを進めている。

また、介護福祉科では、施設との情報交換や連携体制の構築を進め、提携施設との関係強化に努めている。さらに、提携施設において教員が施設職員向けに教育プログラムを提案するなど、教育と現場を結ぶ新たな取り組みを行い、実践的な学びを促進している。教員の組織体制についても、組織図及び校務分掌を定め、学校・学科を超えた連携・協働体制を整えている。

【課題及びその改善方策】

教員の業務負担が大きくなっているため、煩雑な教務事務の軽減を図り、教材研究や学生指導等に割ける時間をさらに確保していけるかが課題である。そのため、事務部門の体制をさらに充実させ、教員が本来業務へ時間を割けるようにする。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	B
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	S
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	S
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	S
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	S

基準 4 学修成果

中項目4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【取り組み状況】

医療福祉業界の就職は、欠員採用といった求人の特性があり、大量採用の機会はあるに等しく、採用情報を見落とさないように担任と就職担当者が求人内容についての情報を丁寧に共有し、学生の活動を細かくサポートした。加えて、ホームページでの求人票閲覧システムを導入し、学生の就職活動の即時性、即応性、利便性向上を図った。就職状況の推移については、クラス運営報告書にて月次で目標達成状況を確認しながら、ミスマッチを防ぐため学生の特性を重視した指導・支援をクラス単位で担任のもと行っている。

診療情報管理士認定試験については、オンデマンド動画を活用し、学生が繰り返し視聴できる環境を整えることで学習効率を向上させた。退学者については、問題が起きそうな学生および状況を早期に見つけ出すため、学科会議・責任者会議で情報の共有化を図り、学生相談室及びフレックスクラス(学校法人麻生塾GCB推進室が運営する校内教育支援センター)と連携を強化した。特に、フレックスクラスとの連携により、様々な事情を抱える学生に対して、その状況に合わせた学びの場を提供する体制を整え、多様な学生が自分に合った学び方を選択できる環境を実現している。

【課題及びその改善方策】

学生が教員への相談等を経ず、急に進路を変更して退学するケースが少なくない。学生からの相談を待っているのは対応が困難であるので、DX 化の導入等によってその傾向をいかに事前に捉えることができるか、またその仕組みをどう構築するかが課題である。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	S
4-1-2	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取組みを行っているか。	S
4-1-3	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	S
4-1-4	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S

中項目4-2

卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【取り組み状況】

卒業生の卒業後の専攻分野における社会的評価やキャリア形成への適応性、効果の把握については、就職担当者の企業(施設等)訪問や、現場実習の際の教員の巡回指導時にも随時行っている。そこで得た情報を学内で共有するとともに、教育活動の改善につなげている。

社会福祉士及び精神保健福祉士国家資格取得については、卒業後 1 年の実務経験が必要なことから、卒業生を対象とした国家試験対策講座を 9 月から 1 月まで行った。講座の受講生については、めざす国家試験の合否がわかることから、必要なサポートを行っている。

【課題及びその改善方策】

特筆する課題はないが、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士については、卒業後の資格取得支援のさらなる拡充が求められる。特に留学生の介護福祉士の不合格者に対する支援は検討しなければならない。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S
4-2-2	卒業生の卒業後の動向や就業状況を調査・把握しているか。	S

基準 5 学生支援

中項目5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

学生に対する支援(就職・進路・相談・経済面・生活環境)については、担任を主としての支援を実施している。また、状況に応じて学科・責任者・学生相談室・就職支援グループ等との連携体制を整え、支援している。

保護者等との連携については、学生の成績・進路の状況に応じて、適宜方法(電話・面談)を選択しながら実施している。卒業生への支援体制としては、再就職支援等を包括的に行う「ASO 卒業生キャリア支援 CONNECT」の運用や麻生塾福岡キャンパス校友会との連携、卒業生を対象とした社会福祉士国家試験対策講座を実施するなど、キャリア支援の充実を図っている。

社会人学生への支援体制は、社会福祉士・精神保健福祉士の通信課程専任の教職員を配置し、適切な支援を実施している。

学生の課外活動について、新たにボランティアサークルを継続し、海岸清掃や博多どんたく港まつりのブース出展など、地域のイベント参加等の活動を行った。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	S

5-1-7	卒業生への支援体制を整備しているか。	S
5-1-8	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S
5-1-9	社会人学生への支援体制を整備しているか。※	S

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者（給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者）をいう。夜間学科及び通信課程を設定している学校が評価対象。

基準 6 教育環境

中項目6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【取り組み状況】

教育上の必要性に対応した施設・設備に関しては、学校法人麻生塾業務推進グループと連携しながら、計画的に維持・管理している。教育上の必要性に対応した機材・備品についても、年次計画を作成して整備している。

麻生専門学校グループ福岡キャンパスの共用施設として、総合図書館を設置している。総合図書館では、規程やルールを定め学生便覧に掲載すると共に、教室内へ利用案内を掲示する等、学生への周知を図っている。

また、固定資産管理規程に基づき、図書や雑誌を含む資料類を適切に管理している。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	S

中項目6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

施設および実習指導者に関する要件が定められている養成課程の学外実習においては、養成施設指定規則を遵守し、実習指導者会議等を開催して、情報共有するとともに学びの場を提供している。また、要件が特に定められていない学科に関しても、実習の環境も含めて妥当性を検討し、教育体制を整えている。

また、学校における安全管理については、適宜点検をおこない、防災・防犯のマニュアルを整備、周知し安全確保を図っている。さらに、12月には避難訓練を実施し、地震を想定した全学生参加の避難行動を確認した。この訓練を通じて、現状の防災体制における課題を明確化し、今後の改善につなげる取り組みを進めている。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-2-1	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	S
6-2-2	定期的に防災訓練を実施しているか。	S
6-2-3	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S

基準 7 学生募集

中項目7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

アドミッション・ポリシーを策定し、学生便覧によって教職員はじめ学生等に周知している。また、募集要項やホームページ、SNS 等によって社会に発信・公表している。

募集活動に関しては、特に保育系2学科と医療秘書・事務科のOC等で使用してる学科紹介の資料の見直しを実施した。また、他学科含め、本校の学校活動・教育成果を含め募集対象者に正確に伝えることができています。

入学選抜においては、「来校」または「オンライン」より選択し受験できるようにしており、遠隔地の学生や感染症拡大のリスクにも対応できるように実施体制を整えている。また、その運用に関するノウハウや情報を Microsoft Teams で共有することで、公正かつ適切に入学選抜を実施している。

【課題及びその改善方策】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。	S

基準 8 財務

中項目8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えている。

学生数の変動等に合せ、毎年予算計画を策定し、月次における予算決算管理を実施している。必要に応じて前年度対比分析を行い、重要な差異が生じた場合には、原因の特定や問題点を把握し、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できるよう適切に対応している。

また、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。
なお、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を適切に公開している。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、予算管理について、収益の変動と教育の質の向上のために必要な支出の内容等を鑑み、適切な予算管理を行う必要がある。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

基準 9 法令遵守

中項目9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

学校教育法及び専修学校設置基準等、関係法令や学内規程を遵守して学校運営を行った。事務部門の機能強化については、年度当初責任者含め4名体制での業務計画をたてた。教務の業務効率化と募集強化について取り組むことができた。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	S
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S

基準10 内部質保証

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

学校教育、学校運営について、担当教員を中心に自己点検・評価を実施している。

教育活動の更なる向上と専門化を図ることを目的に、学校関係者評価委員会を年1回、教員課程編成委員会を年2回開催し、カリキュラム改訂や学校全体の教育活動の底上げに努めた。

課題解決に向けては、主に全体会議において課題を共有し、全教職員で解決に向けての意見交換等を行った。

これら一連の活動については、自己点検・評価および学校関係者評価の結果をホームページにて公表した。

【課題及びその改善方策】

改善計画の進捗状況を全教職員で共有するために、定例会議以外でも発信できるしくみが必要である。全体朝礼等において、改善計画とその進捗に関する情報をタイムリーに受発信するなど、情報の共有に一層努める。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	A
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	S
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	S
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	S
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

基準11 社会貢献・地域貢献

中項目11-1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

社会福祉科の学生が福岡市立東住吉小学校と連携し、「ASO 子ども食堂」を毎月1回開催した。また、こども未来学科の学生による東住吉公民館(福岡市)での「子育てサロン」については、今年度も継続開催することができた。

また、ボランティアサークル活動の継続で、今年度も博多どんたく港まつりのブース出展や新宮海岸の清掃活動等、地域貢献活動の強化を図った。

【課題及びその改善方策】

課題は特にない。現行活動しているものについては継続していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	S